

木下淡路守豊臣利當者木下二位法印家定二男
宮内少輔利房子也自幼好槍術為精妙刺穿如神
應變無窮故其芳譽遍四海兒童走卒稱其術故推
曰木下流寬文元年辛巳年十二月廿九日卒享年五
十有九

加藤出羽守泰興

加藤出羽守藤原泰興者左近大夫自泰嫡也自幼
馳馬試劍共得其巧最長槍術好成放鷹之遊蓋講
武事也安而不忘危者乎又以餘力學文是故無長
無少遇事之精者乃無不從問之有武事者必有文

備之謂乎

德氏曰多務立なりて我よりす終の
長くより且夫この務あり私軍務業少
くけしむの利なきとゆふ刀長刀小多て性
來れりことあり自由なきものハ文字か
る入身したるものハ長刀より短なり近世上手
乃若とゆふ人々小ハ本下淡州加友羽州後家
の家中坂口八家右衛門是ホハ皆二君計の寸槍と
用たり人小あり而小優て利ありハゆと
ともありしと定じしる

卷之七終

武藝小傳卷之八

砲術

南陽集曰天文十二年癸卯七月八月廿五日
 大隅小川内種子崎カゴノガ外外の西村の小浦に異
 曲の大船一艘漂着と報寄百餘人ありそ
 形類カタガタなく之類カクニ遊ユむ所ありと云ふと
 志しに其中より大隅の儒生一人居たり又
 と名づくは内西村村司小磯部重と云ふの
 戸頗ウラ文字と云ふり偶トキ又書よきて年族
 ても雲クモの賈客アキヒトなる事と云れ戸司は七月表に

千成小傳卷之八

ニカハ有ラ

と守て赤尾本津へ入じ此の司タ子カニ時
竟タカを私仲と懸テ捨ケンし孫傍タカを其タカ知と云ふのを
して菊彦タカと云ふ賈アキヒト胡ヒトの虫二人ありて一人の
半良タカ叔サ舎サと云ふ一人と表利タカ志タカ多モウ志タカと云ふ
小二タカ三人あり此の物と掛ふ是れ創タカ今タカ此タカ快タカ也
時竟タカ悦タカて價アタと云ふと彼二の快タカ也タカ又
重ウツ快ウツとて其タカ術タカと書人タカよ習タカ得タカ乎タカと云ふ
此タカ制タカ法タカと云ふ小信タカ菴タカ川タカ小宮タカ命タカと云ふのをとて是と
学タカへしじは時よ當て紀タカ刑タカ根タカ来タカと云ふ此タカ種タカ松タカ坊タカと云
ふあり子タカ里タカと云ふとせしめて快タカ也タカと云ふ時竟

を監タカ中タカ保タカと感タカ津田タカ監タカ也タカと云ふと
て快タカ也タカ一タカ挺タカと松タカ坊タカよ道タカり且タカ妙タカ業タカの法タカと大
と教タカの道タカと云ふし又時竟タカ快タカ也タカ匠タカ教タカ人を
して其タカ形タカの形タカ家タカと云ふし日タカ夜タカ飛タカ練タカして動
よ是と製タカせんといふ其タカ刑タカ制タカの形タカ是と云ふとい
へとも其タカ形タカと云ふと云ふと云ふは其タカ監タカ年タカ又タカ書
其タカ賈アキヒト胡ヒト子タカ乃タカ内タカ德タカ也タカ又タカ来タカる其タカ賈アキヒト也
乃タカ中タカよ孝タカに一人の快タカ也タカ匠タカ也タカ夫タカの快タカ也タカ
と信タカひ創タカ合タカ其タカ法タカ定タカと云ふのをとて其タカ形タカと
云ふと法タカを習タカりし時タカ月タカ所タカ也タカと云ふ

干城小傳卷八

〇三

これと為る事と云ふを以て新に教授の
銃砲と制せり其後其を飾り加これよ
りして家内乃常皆其意を所持しけり泉
石境の商人備倉又之命と云者種子嶋より一
年逗留して銃砲と飛鏢とをの術と名ひ
て傳りて其後其内近きと廣り又之は関東
あは廣りたり又之翌年日本此商人大明へ
渡りて大風よきて傳りて吹りて其内
よ種子嶋の商人松卜み命と云銃砲技術
習熟れ者ありて関八段よ傳りて其内

銃砲は種子嶋より傳りて其内

津田監物

津田監物者紀州那賀郡小倉人也好砲術到種子
嶋究奥旨天文十三甲辰年三月十五日發種子嶋
歸紀州凡在嶋十余年也其子自由齋傳其術為精
妙遊自由齋之門者若干奥跡其宗如神未
流在諸州曰津田流

津田流傳書曰津田監物は紀州那賀郡小倉
の人也好銃砲種子嶋より傳りて其内
威津田の志と感して其意とわたりや

管地秩者郎といふ者よはわくは砲の集
名と寛じ天文十三己三月十日自移の流と
受して紀列よゆり津田流と号と也

泊兵部少輔一火

泊兵部少輔藤原一火者筑前之武夫也好砲術天
正年中赴種子嶋究妙旨在嶋七年也有岡田助之
丞重勝者得一火傳為精妙後仕青山大膳亮幸能
在重勝之門者若干今猶曰一火流

田付兵庫助景澄

田付兵庫助源景澄者砲術達人也其父美作守景

定者江州神崎郡田付村之人而佐々木庶胤也景
澄以其藝奉仕

東照宮改宗鉄其子兵庫助景治相續其藝其子四
郎兵衛方圓奉仕

大猷大君其子四郎兵衛直平繼其藝其名徧
於海内推曰田付流

或人曰田付宗鉄編者倭奴安足隠波三人とそ
比換砲の名人と京田全たよ風あり傳り

井上外記正繼

井上外記源正繼者播州英賀城主井上九郎左衛

門子也豐臣秀吉公播州退治之時九郎左衛門戰死此時正繼幼少也成人之後屬酒井阿波守忠世浪速戰場而得首二級天下下統而奉仕
台德大君領采邑千石正繼自少年好砲術為精妙遊其門者多推曰井上流正保三丙戌年九月十三日於小栗長右衛門宅斬長坂丹波守稻富喜大夫死其剛勇至今稱之子孫猶相續其藝在幕下

田布施源助忠宗

田布施源助忠宗者河內人也天文六丁酉年四月赴於南蠻而得鉄砲奧旨有酒井市之丞正重者從

忠宗得宗仕戶田左門氏鉄慶長年中於伏見奉備技術於

東照宮

台覽得芳譽在正重之門者多山内太郎兵衛久重得其宗為精妙末流在諸州曰田布施流

稻富伊賀入道一夢

稻富伊賀者丹後田邊人而仕一色家後仕細川越中守忠興好修砲術遂得神妙慶長甲子亂後以其藝奉仕

東照宮發名於四海從一夢而遊其藝者若干諸州其末流多推曰稻富流

西村丹後守忠次

西村丹後守源忠次者始號權之助不知為何國人得鉄砲奧旨於京師蓮臺野放砲而的中多人稱其妙後於禁庭隔十八間七放而星中四角中三故被任丹後守流芳名於千歲有種田木工助者繼其藝淺香四郎左衛門朝光從種田得其宗推曰西村流或曰朝光者慶長年中人也

藤井河内守

藤井河内守者一二齋流鉄砲達人也不詳其事跡未流猶在諸州

三木茂大夫

三木茂大夫者播州三木人也好火術達棒火矢未流在諸州推曰三木流

或書曰鉄炮八根來ノ板坊河内ノ安見右近江州ノ百々内藏助ナト下ケ針ヲ打ホトノ達者也云

卷之八終

武藝小傳卷之九

小具足

捕縛

小具足捕縛者其傳來久也專以小具足鳴世者竹內也今謂之腰廻

竹內中務大夫

竹內中務大夫者作州津山城下波賀村人而小具足之達人也今謂之竹內流腰廻其末流在諸州傳書曰天文元壬辰年六月廿四日修驗者忽然而來竹內之館教捕縛五而去不知其所歸竹內常祈河太古神篤憶彼修驗者河太古之神乎弥敬之信之

云其子常陸助其子加賀助繼箕裘藝不墜家名其名遍日域

荒木無人齋

荒木無人齋者不知謂何國人亦不詳其事跡捕縛之達人而其法猶存于世曰無人齋流

森九左衛門

森九左衛門者捕縛之達人也其當身得妙而神也後奉社紀州頼宣卿發其名

夏原八大夫

夏原八大夫者夢相流小具足達人也今川久大夫

繼其傳武井德左衛門得今川之傳松田彦進傳武井之藝有鈴木彦左衛門者從松田得其宗為精妙

卷之九終

武藝小傳卷之十

奉

奉法秘者曰今世より西彌柔形を武儀志より是
と奉といふ古是と自搏と云日中し始る事ハ
を世陳元贊と云との我必より尋り居て江戸
儀府乃必正ちる又浪人より秘形七多奪
破目必取た馬つ三浦と決ち馬つといふものあり
彼ちより寓居して衆寮よりより元贊のあり
て大ゆい人ときりぬる形あり我を形をちるす
といへとも秘を技をみはると云右三人の士を形